

広報 京丹波 10

NO.132 2016.10.17 発行 TOWN KYOTAMBA



京都丹波くりまつり いが投げコーナー（道の駅「丹波マーケス」）

contents

- 02 防災特集 | まず、助かることを考える なるべく無事で、生きること
- 06 特集 | 平成27年度決算報告 まちの台所事情
- 12 いきいき健康術
- 13 連載「森の京都」京丹波スタイル
- 14 FLASH まちの話題
- 16 交通安全ポスターコンクール入賞作品

防災特集

まず、助かることを考える なるべく無事で、生きること

防災目線で見た 本町の弱みと強み

本町は丹波高地の分水嶺に位置し、竜巻が起これにくく広範囲にわたる浸水被害に遭いにくい一方、急峻な地形のため土砂災害の恐れがあり、災害時には山間に点在する集落が孤立する可能性もあります。そして、福井県の高浜発電所と大飯発電所の事故が発生した場合、事態に応じて屋内退避または避難しなくてはならないUPZ圏内(緊急時防護措置を準備する区域)にあります。

人口減少により、防災活動や災害対応の担い手が少ないものの、地域のコミュニティ活動が盛んで共助力を発揮する土台があります。本町の人口に対する消防団員の割合は5・4割と京都市内で4

番目の高さ。訓練経験や防災知識を持つ住民が多いことは、救える人口が多いということであり、「自分たちの生命・財産を自分たちで守る」という自主防災意識の高さにつながっています。



↑スクリーニング検査 放射能の付着の有無を検査。



→車両除染 自衛隊が移動車両を除染。車の隅々まで洗浄。



↑洗浄体験 放射性物質が検出されたら、せっけんなどで洗い流す。

↓安定ヨウ素剤緊急配付訓練(町和知支所)

放射性ヨウ素を体内に取り込むと甲状腺に集まり、数年から数十年後に甲状腺がんを発生させる可能性があるため、事前に放射性でない安定ヨウ素を甲状腺にためた状態にして放射性ヨウ素を入りにくくする予防措置。訓練ではアメ玉を配付。



原子力防災訓練 内閣府と関係府県で初

八月二十七日、内閣府と高浜発電所周辺の三府県などが、若狭湾沖の地震発生による発電所の事故発生を想定した原子力防災訓練を行いました。

和知地区から区長や区長代理など十八人が住民避難などの訓練に参加。避難指示を受けて町和知支所に集合した参加者は、安定ヨウ素剤の配付訓練や府立丹波自然運動公園に開設された避難退域時検査所でスクリーニング検査や除染などを体験しました。

土砂災害住民避難訓練 高岡地区九十六人が参加

翌週九月四日には南丹地域における複合災害を想定した京都府総合防災訓練が実施されました。亀岡市・南丹市では地震や水害、原子力防災訓練が行われ、本町では高岡地区住民や消防団が土砂災害

避難訓練や炊き出し訓練に参加しました。

参加者は、避難勧告の放送を受けて各公民館に集合し、中村区公民館では炊き出し訓練を実施。下村区・鎌倉区の参加者は指定避難所である竹野小学校校体育館へ移動しました。高齢者など自力での移動が困難な要配慮者は、町福祉避難車両で避難しました。

避難用品を携帯して参加した小峰一夫さんは、「訓練らしく模範的に懐中電灯やタオルなどを持参したが、報道で見る避難者は、着の身着のままという感じ。実際に避難するときは、お金など貴重品も必要」と考えています。参加者アンケートでは、「どのようなことに気をつけて避難するかイメージできた」、「本当の避難ならもっと大変でパニックが起きると思うので、冷静が必要だと感じた」、「年寄り小さな子どもがいるので本当に避難するときは大変だと思った。日ごろの心がけを大切にしたい」とさまざまな気づきがありました。

↓公民館から指定避難所(竹野小)へ移動

参加者は自家用車や徒歩で移動。消防団員が避難経路の安全確認を行いながら住民を誘導した。また、避難訓練中の留守宅警備のため消防車が地区内を巡回。



↑感想は今後のために。



↑避難所の健康相談コーナーを体験。



↑炊き出し訓練(中村公民館)



←自衛隊炊き出し訓練 調理車両で作られたカレーライスとうどんが提供された。

備える

防災特集 | まず、助かることを考える なるべく無事で、生きること

災害はいつ、どこで起こるかわかりません。暮らしの場、外出先。家族が一緒にいる時間帯とは限りません。日ごろから「災害にあったらどうしよう」と考え、想像しましょう。そして、自分自身や家族を守るために災害に備えましょう。



男女共同参画研修会「きらりセミナー」(9月3日/和知ふれあいセンター)
「防災と男女共同参画」をテーマに多様な視点を生かした地域の防災対策について、参加者が意見を話し合いました。(左写真の中央:久保智里講師)

関連死の約半数が 避難生活での疲労

「子ども三人を連れての避難は大変だと感じた。子どもがじっとしていられず周りに迷惑をかけるのではと、たいへん心配した」と土砂災害住民避難訓練の参加者アンケートの一感想。実際に性別や置かれている立場によって被災状況は異なります。

東日本大震災(平成二十三年三月十一日)における震災関連死の死者数は、一都九県で合計三千四百七十二人。このうち平成二十七年九月十日まで(発災から四年半以内)に亡くなった人が三千四百六十七人、さらにその後の半年間で五人が亡くなっています。

復興庁は災害対応策を検討するため、震災関連死の死者数が多い市町村と原発事故で避難指示が出た市町村の合計一千二百六十三人に原因調査を実施。調査の結果、約六割の人に既往症(※)があり、約九割の人が七十歳以上であること、原因の約半数が避難生活

活での肉体的・精神的疲労であることが報告されました。

また、福島県は他県に比べ、避難所などへの移動中の疲労による方が多く、原子力発電所事故に伴う避難の影響が大きいと考えられています。

「避難所では周りが大変な状況だからと意見が出せず、我慢を重ねてしまう傾向がある」と京都市男女共同参画推進協会の久保智里講師。地域の防災対策には多様な人々の視点を生かすことが大切だと訴えます。

性別・立場による 被災の違いとは

環境面 (生活環境)

▼着替えやトイレなどのプライバシーが守られず怖い思いをした。

▼乳幼児や障害のある人、介護が必要な人やその家族は避難所にいづらくなった。または、避難所に行けなかった。

〈物資の不足と配付方法〉

▼育児や介護用品、女性用品や下

顔のつながり強みに 性別や年代交えて対策を

被災者一人ひとりが直面する問題が違うことを理解し、配慮して支援し合うためには、さまざまな視点で対策を進める必要があります。実生活に根ざした知識や能力を持つ女性、障害のある人、介護をする人、高齢の人、外国の人など。防災訓練は、自分の住む地域にある多様性に気づき、被災時の自分自身の立場をイメージするきっかけでもあります。

久保講師は、「京都市の某区で防災訓練が行われた際、運営者が高齢の男性ばかりで子連れの避難者を想定されていなかった。参加した若い母親たちは逆に不安が増した。その点、京丹波町は「顔」で地域がつながっていることが強み。もしものとき、一部の人に負担が集中することがないように、普段から女性と男性が共に地域や組織の運営に当たり防災対策を進めてほしい」と呼びかけました。

実際に行われた支援の好事例

在宅避難している人へ 支援物資が届くしくみ

移動が困難、周囲への気兼ねを理由に在宅避難生活をされる人へ、食料や物資を配付する仕組みをつくり、避難所の混雑緩和と環境改善を同時に達成。

要配慮の人へ 専用スペースを設けた

高齢の人や障害のある人など配慮が必要な人のための専用スペースや簡易ベッドを設けた。

被災者どうして 子どもを預かり合った

避難所で被災者同士が子どもの預かり体制をつくり、女性も復興や支援の活動ができるようにした。

避難所に女性リーダー 相談の取りまとめ役に

避難所では男性のリーダーが多いなか、あえて女性数人をリーダーにした避難所で、個人の苦情と受け取られがちな生活ニーズや男性に話づらい相談を取りまとめ状況が好転した。

女性に聞き取ったこと を支援活動へつなげた

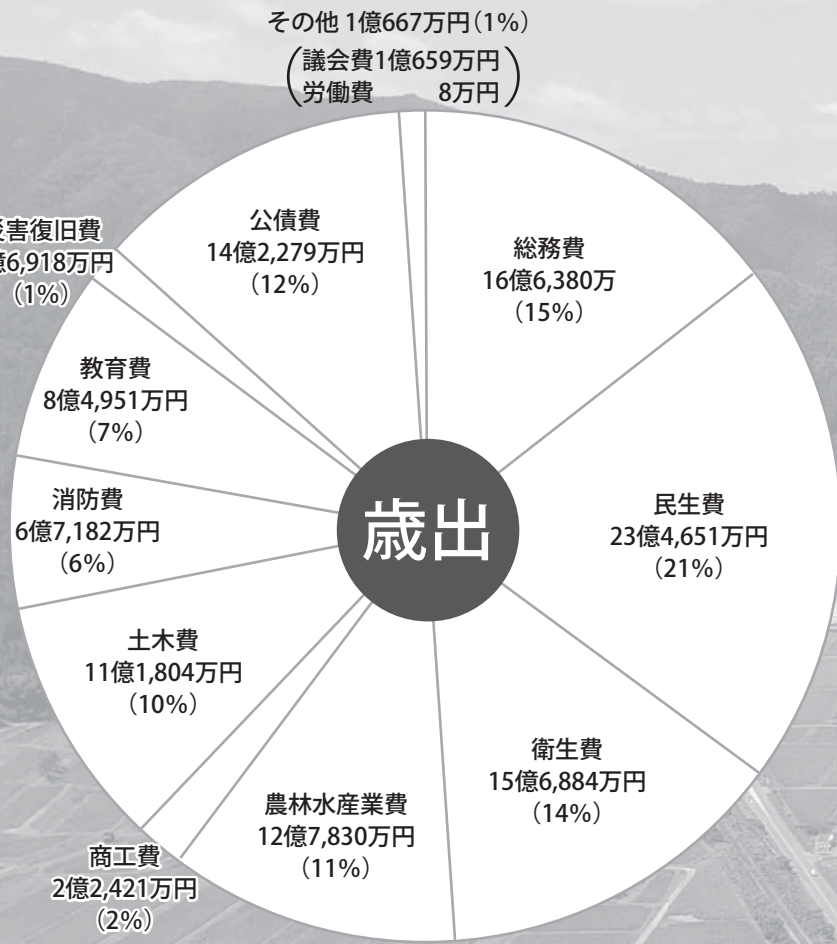
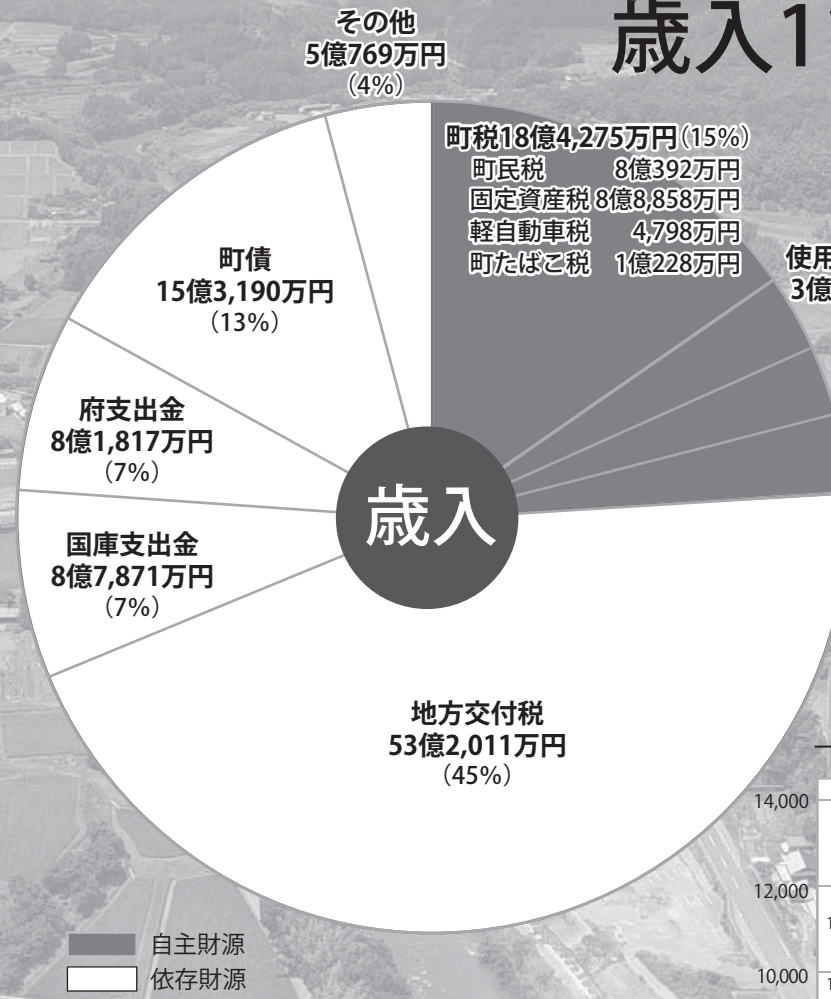
避難所の女性を集めて聞き取りやリクエスト票に記入してもらい支援活動につなげた。

- ▼着が不足した。
- ▼責任者は男性が多く、女性用品や下着を受け取りにくかった。
- ▼事情により自宅で避難生活をしている人が支援物資を受け取れなかった。
- ▼慢性的疾患の悪化、低栄養や生活不活発病、感染症を発症。
- ▼不衛生な環境が原因で便秘や女性疾患を発症。
- ▼介護者不足による床ずれ。
- ▼妊産婦などの医療支援不足。
- ▼ストレス・不安・不眠。
- ▼男性はストレスをため込みがち。
- ▼ドメスティックバイオレンスの発生、悪化。
- ▼女性や子どもが性暴力やハラ・スメントの被害にあった。
- ▼家庭・社会生活面
- 〈性別役割の顕在化〉
- ▼ライフラインがなく家事や家族の世話が重労働になった。
- ▼炊き出しの負担が女性に集中。
- ▼一部の男性への過度の負担。

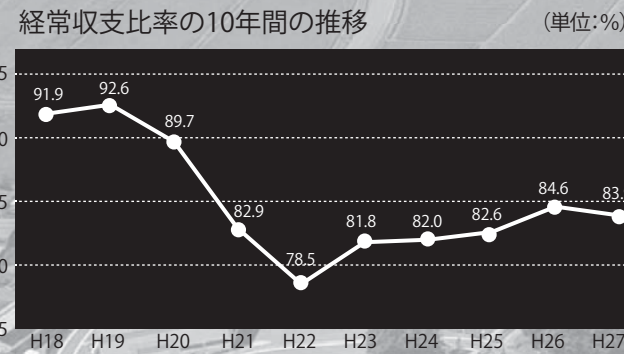
特集 | 平成27年度決算報告 まちの台所事情

平成27年度決算が9月の議会定例会で認定されました。
 昨年度は台風18号による災害復旧事業の完了や
 新たな地域振興拠点「京丹波 味夢の里」のオープンなど、大きな公共事業が完成。
 町合併10周年記念式典を契機に新たな将来像に向かい、再スタートを切りました。

歳入119億3,211万円



歳出114億1,968万円



※各グラフの金額は端数処理の関係上、合計などと一致しないことがあります。

投資事業完成で規模縮小

人口減少に伴う納税義務者の減少、製造業の業績低迷など社会的な背景が影響し、税収など町自らの収入(自主財源)は歳入全体の三割未満。行政サービス経費の75.9%を地方交付税や地方債など国や京都府から割り当てられた依存財源でまかっています。

一般会計の決算収支は5億1244万円の黒字。収支から前年度繰越額を差し引いた実質的な差額(実質収支)は、3億1230万円の黒字でした。また、実質収支から前年度実質収支を差し引いた単年度収支は2億5219万円、単年度収支に黒字要素(積立金など)と赤字要素(積立金取り崩し額)を差し引きした実質単年度収支も2億9556万円の黒字となりました。

町債(借入金)残高は147億3039万円で前年度比1.8%の増。基金(貯金)残高は、振興基金に合併特例債を活用して2億9191万円を積立したことなどにより、前年度比10.8%増の45億2466万円でした。

人件費や扶助費などの経常経費が、経常的な一般財源に占める割合を経常収支比率といい、70%程度が弾力性のある財政状態の目安。地方税や地方消費税交付金の増額により83.9%、前年度比0.7%の減でした。

健全化判断比率は 財政の健全さを維持

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」では、財政状況を客観的に表す「健全化判断比率(四指標)と「資金不足比率」を定めています。これらの指標の判断基準を一つでも超えると、財政健全化に取り組みなくてはなりません。本決算で基準を超える指標はありませんでした。(左欄のとおり)

[健全化判断比率]

実質赤字比率

一般会計などの赤字の大きさ。

【対象会計】一般会計、
育英資金給付事業、
土地取得
町営バス運行事業

【算定結果】赤字収支なし

連結実質赤字比率

公営企業を含む地方公共団体の全会計の赤字の大きさ。

【対象会計】財産区会計を除く全会計
【算定結果】赤字収支なし

実質公債費比率

借入金(地方債)の返済額(公債費)の大きさ。

【対象会計】財産区会計を除く全会計
【算定結果】14.0%

早期健全化の基準:25.0%以上

財政再生基準:35.0%以上

将来負担比率

地方公共団体が現在抱えている

借入金(地方債)の大きさ。

【対象会計】財産区会計を除く全会計
【算定結果】119.6%

早期健全化の基準:350.0%以上

[資金不足比率]

資金不足額が公営企業の事業規模に占める割合。

【対象会計】
国保京丹波町病院事業
水道事業、下水道事業

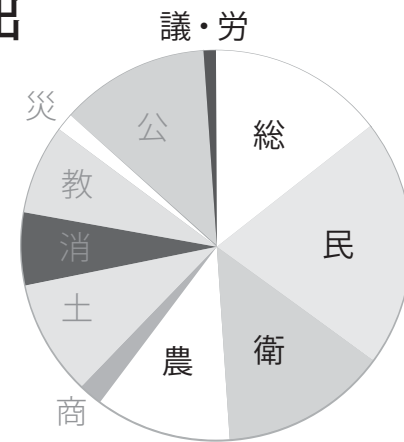
【算定結果】
資金不足額なし

農林水産業費12億7,830万円

農業委員会費	
農業委員会の運営に関する経費	958万円
農業総務費	
農業総務に関する経費(職員給与など含む)	6,613万円
農業振興費	
有害鳥獣対策経費 (有害鳥獣捕獲委託、被害防止施設の設置など)	7,492万円
農業公社運営補助金	1,910万円
農業機械導入補助金	879万円
中山間地域等直接支払交付金	1億967万円
特産物の作付け奨励金	1,803万円
黒大豆・小豆生産加速化事業	485万円
多面的機能支払交付金(市町村負担分)	9,607万円
青年就農給付金	1,275万円
集落営農発展型農場づくり事業	424万円
農地中間管理事業協力金	1,009万円
攻めの農業実践緊急対策事業	706万円
その他農業振興に関する経費	6,822万円
畜産業費	
鳥インフルエンザ発生農場跡地解体撤去工事	668万円
堆肥による土づくり事業	615万円
その他畜産振興に関する経費	686万円
農地費	
ため池改修工事(安柄里地内豊昌池)	2,486万円
土地改良施設維持管理工事	854万円
農林漁業事業補助金(農道・用排水路・農業施設などの改修)	2,987万円
測量設計監理業務などの委託料	1,802万円
土地改良区運営補助金	300万円
下水道事業(農業集落排水)特別会計への繰出金	1億9,904万円
その他農地管理に関する経費	1,387万円
山村開発センター費	
山村開発センターの管理	659万円
農村情報施設管理費	
農村情報施設(ケーブルテレビ)管理費	2億4,839万円
山村振興対策費	
全国山村振興連盟会費	4万円
林業費	
林業総務経費(職員給与など含む)	3,649万円
林業振興費	
公有林整備事業委託料	2,051万円
森林資源管理システム開発委託料	2,360万円
森林資源調査委託料	8万円
林道開設工事	6,606万円
林道維持管理、測量設計業務など委託料	689万円
緑の公共事業補助金	227万円
緑の担い手育成事業補助金	452万円
木材搬出奨励事業補助金	566万円
林道維持管理補助金	437万円
薪ストーブ設置工事	162万円
美しい森林づくり基盤整備交付金	600万円
薪ストーブ等購入補助金	73万円
高性能林業機械導入整備補助金	247万円
その他林業振興に関する経費	1,096万円
林業センター運営費	
林業センターの管理経費	298万円
水産業費	
和知川漁協、由良川漁協への活動補助金	170万円

特集 | 平成27年度決算報告 まちの台所事情

一般会計費目ごとの 主な支出



*金額は1万円未満四捨五入。端数処理の関係上、合計などと一致しないことがあります。

衛生費15億6,884万円

保健衛生総務費	
船井郡衛生管理組合分担金(火葬場維持管理)	654万円
保健衛生総務費(職員給与など含む)	1億1,092万円
保健事業費	
検査検診委託料	5,791万円
特定検診委託料	1,239万円
心の健康相談支援事業委託料	125万円
健康器具使用事業、食生活改善事業など	1,125万円
予防費	
予防接種の実施に関する経費	3,106万円
環境衛生費	
丹波ひかり小太陽光発電システム設置工事	3,062万円
合併浄化槽設置補助金	506万円
住宅用太陽光発電システム設置補助金	144万円
水質検査、設備保守点検など	5,216万円
診療所費	
京丹波町病院事業会計運営補助 (出資金、利子)	3億5,688万円
公立南丹病院負担金	1,650万円
その他診療所に関する経費 (地域包括医療発表会など)	94万円
保健センター管理費	
保健センターの管理に関する経費	1,768万円
清掃費	
ごみ処理手数料	3,842万円
船井郡衛生管理組合分担金 (塵芥処理、し尿処理)	2億4,340万円
資源ごみ集団収集助成金など	285万円
上水道費	
水道事業特別会計への繰出金	5億7,158万円

労働費 8万円

労働対策に関する経費	8万円
------------	-----

総務費16億6,380万円

総務管理費・文書費	
一般管理に関する経費 (職員給与、区長会運営補助、各種負担金など)	5億2,985万円
例規集サポートシステム委託料	322万円
例規整備支援等業務委託料	270万円
その他文書広報に関する経費	491万円
財政管理費・会計管理費・財産管理費	
財政管理・会計管理に関する経費	131万円
町有財産管理、基金積立金など	5億3,793万円
企画費	
町合併10周年記念事業に関する経費	323万円
総合計画、地方創生戦略の策定に関する経費	785万円
公用車の購入、京都丹波ロードレース補助金など	1,565万円
支所費	
JR和知駅トイレ改修工事	727万円
町有施設・設備等維持改修工事	560万円
本庄地内分譲用団地造成工事	2,775万円
支所管理経費(職員の給与など含む)	1億5,695万円
公平委員会費	
公平委員会に関する経費	3万円
諸費	
グリーンランドみずほ管理運営委託料	2,000万円
グリーンランドみずほホッケー場改修工事	453万円
和知駅振興委託料	270万円
街灯設置補助金・防犯協会負担金など	217万円
公共施設設備の維持管理など	355万円
交通対策費	
町営バス利用促進助成金	125万円
町営バス運行事業会計への繰出金	6,730万円
交通指導員活動、交通安全協会運営補助など	203万円
振興事業費	
自治振興補助金	260万円
住民自治組織まちづくり交付金など	162万円
旧和知第二小の屋内多目的グラウンドの 測量設計監理業務委託料	1,339万円
若者定住促進宅地購入補助金	100万円
その他地域振興経費	176万円
電算管理費	
行政情報システムの保守管理など	3,749万円
行政情報システム運用に関する負担金	1,616万円
行政情報システムの維持管理経費など	493万円
生涯学習費	
国際交流協会補助金	300万円
講演会開催、人権政策の推進など	357万円
地域資源活用推進費	
地域熱供給システム実施設計業務委託料	1,500万円
バイオマス産業都市構想策定業務委託料	404万円
地域資源活用事業に関する経費	1,211万円
徴税费	
京都地方税機構負担金	1,047万円
税務に関する経費(職員給与など含む)	8,990万円
戸籍住民基本台帳費	
戸籍住民基本台帳管理経費(職員給与など含む)	2,948万円
選挙費	
京都府議会議員選挙の執行経費など	211万円
統計調査費	
各種統計調査(国勢調査など)に関する経費	693万円
監査費	
監査委員に関する経費	46万円

議会費1億659万円

議会運営経費(議員報酬や職員給与など含む)	1億659万円
-----------------------	---------

民生費23億4,651万円

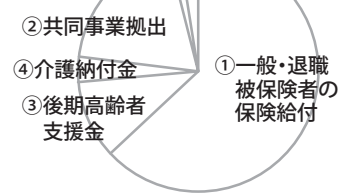
社会福祉総務費	
社会福祉総務に関する職員給与など	2億2,427万円
地域福祉計画策定、心配ごと相談など業務委託	398万円
京丹波町社会福祉協議会補助金	5,490万円
臨時福祉給付金	2,104万円
民生児童委員活動補助	1,002万円
社会福祉団体活動補助金など	290万円
国民健康保険事業特別会計への繰出金	1億7,732万円
社会福祉施設費	
和知高齢者コミュニティセンター管理運営委託料	70万円
障害者福祉費	
重症心身障害者通院通所支援業務委託料	702万円
共同作業所運営委託料	2,188万円
日中一時支援事業委託料	1,283万円
総合福祉システム導入委託料	769万円
相談支援事業委託料	530万円
その他障害福祉に関する委託料	1,384万円
心身障害者医療給付費	5,745万円
障害者自立支援給付費	3億4,833万円
自立支援医療給付	1,672万円
重度心身障害者老人健康管理事業給付	2,793万円
その他障害福祉に関する給付	848万円
通院・通所交通費助成など	1,493万円
老人福祉費	
長寿者報償	166万円
外出支援・食の自立支援事業委託料	2,506万円
シルバー人材センター運営補助金	630万円
老人クラブ連合会活動補助金	376万円
後期高齢者医療へ負担金・繰出金	2億8,458万円
介護施設等整備補助金	332万円
老人医療給付費	2,972万円
介護保険事業特別会計への繰出金	3億6,556万円
その他老人福祉に関する経費	777万円
国民年金費	
国民年金事務に関する経費	76万円
児童福祉費	
すこやか祝い金	820万円
ファミリーサポートセンター事業委託料	500万円
婚活支援事業委託料	60万円
生涯学習施設改修工事	87万円
子育て世帯臨時特別給付金	422万円
京都市子育て医療・すこやか子育て医療給付費	2,505万円
児童手当費	1億7,462万円
障害児通所給付・障害児補装具給付など	1,051万円
高校生等医療給付	90万円
その他児童福祉に関する経費	1,541万円
ひとり親家庭福祉に関する経費	945万円
保育所運営管理経費(職員給与など含む)	3億2,555万円
災害救助費	
災害見舞金	10万円

特別会計の主な使いみち

※実質収支額は前年度繰越額を差し引いた単年度差額
※グラフは歳出内訳

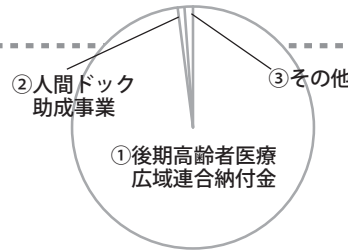
国民健康保険事業

歳入23億9,297万円
歳出23億8,596万円
実質収支 701万円



後期高齢者医療

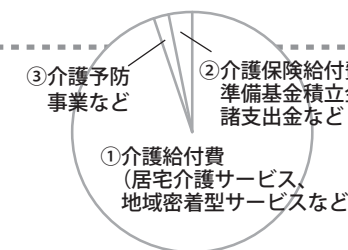
歳入 2億581万円
歳出 2億314万円
実質収支 267万円



介護保険事業

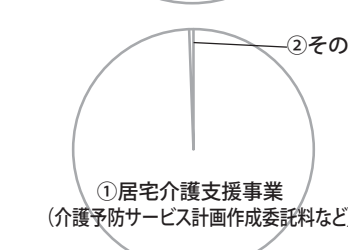
【事業勘定】

歳入21億3,194万円
歳出20億4,076万円
実質収支9,118万円



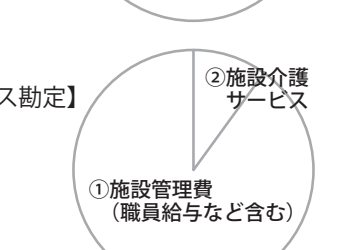
【サービス事業勘定】

歳入 772万円
歳出 557万円
実質収支 216万円



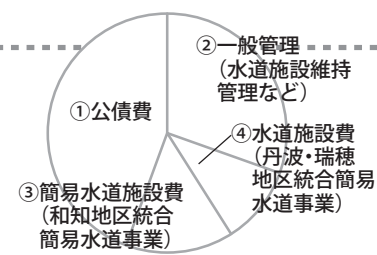
【老人保健施設サービス勘定】

歳入 1億6,399万円
歳出 1億6,281万円
実質収支 117万円



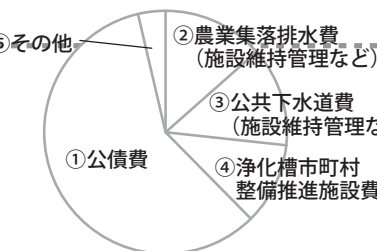
水道事業

歳入15億6,414万円
歳出15億3,457万円
実質収支2,557万円



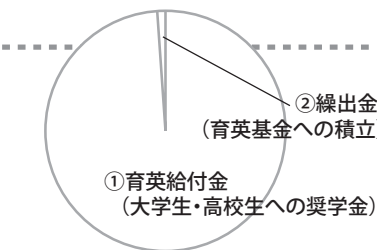
下水道事業

歳入 9億3,378万円
歳出 9億2,966万円
実質収支 12万円



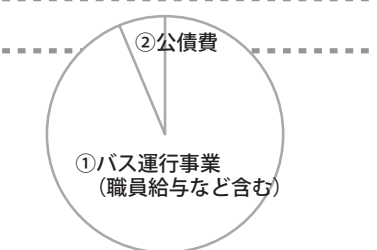
育英資金給付事業

歳入 283万円
歳出 283万円
実質収支 532円



町営バス運行事業

歳入 1億578万円
歳出 1億546万円
実質収支 32万円



土地取得特別会計は、歳入歳出共に19万円で、財産運用収入を基金として積み立てました。

国保京丹波町病院事業(地方公営企業)会計

病院・和知診療所・和知歯科診療所

地方公営企業会計は、収益的勘定(医療業務に関するもの)と資本的勘定(設備投資に関するもの)の2種類で構成しています。

収益的勘定においては、特別損失を計上したものの純利益は139万円となり、5年連続単年度黒字となりました。

資本的収支(税込み)では、企業債の償還金や医療情報システム、医療機器の購入、設備改修などに2億7,245万円を支出しました。その財源(収入)は、一般会計からの繰入金や企業債の発行、過年度分損益勘定留保資金を充当しています。

【収益的収入】(税抜き)

医薬収益(入院や外来、健康診断、予防接種など)	7億 305万円
医薬外収益(一般会計繰入金や国保会計補助金など)	2億4,992万円
収益合計	9億5,297万円

【収益的費用】(税抜き)

医薬費用(人件費や材料費、運営経費、減価償却費など)	8億7,917万円
医薬外費用(企業債利息や繰延勘定償却費など)	3,517万円
費用合計	9億1,434万円

経常利益 3,863万円

【特別損失】

過年度損益修正損	3,724万円
純利益	139万円

商工費 2億2,421万円

商工総務費	4,900万円
商工総務費(職員給与など)	4,900万円
商工振興費	1,829万円
商工会小規模事業経営支援事業補助金	1,829万円
地域創生プレミアム商品券補助金	3,258万円
企業立地奨励金	325万円
その他商工振興に関する経費	1,332万円
観光費	6,521万円
業務委託料(わち山野草の森・質志鐘乳洞公園などの管理、味夢の里モニタリング調査、イベント企画運営など)	1,492万円
自然双生運動公園施設撤去、看板設置、貸し農園改修など	830万円
観光協会運営補助	1,934万円
京都府観光連盟など各機関への負担金など	1,934万円

消防費 6億7,182万円

常備消防費・非常備消防費・消防施設費	2億7,271万円
京都中部広域消防組合負担金	7,938万円
消防団の運営、消防施設の維持管理	4,152万円
消防自動車購入、防火水槽撤去など	2億5,714万円
防災行政無線整備工事	596万円
地域防災計画策定業務委託料	490万円
防災行政無線施工監理業務委託料	197万円
防災備蓄備品の購入	784万円
設備保守点検管理など	40万円
災害対策備品の購入など	40万円

教育費 8億4,951万円

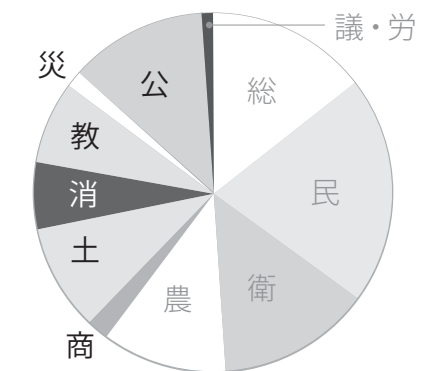
教育総務費	1億6,410万円
教育総務費(職員給与や教育委員報酬など)	1億6,410万円
育英資金給付事業特別会計への繰出金	140万円
小学校費	8,185万円
小学校管理経費(職員給与などを含む)	5,059万円
小学校の教育振興に関する経費(教材、通学バス補助金など)	8,177万円
中学校費	6,408万円
中学校設備改修工事	686万円
測量設計管理業務委託料	4,745万円
中学校管理経費(職員給与などを含む)	6,408万円
中学校の教育振興に関する経費(教材、通学バス補助金など)	1,792万円
幼稚園費	6,725万円
幼稚園設備改修工事	100万円
幼稚園管理経費(職員給与などを含む)	100万円
社会教育費	100万円
女性の会活動補助金	100万円

公債費 14億2,279万円

長期債償還元金	12億7,304万円
長期債償還利子	1億4,975万円

土木費 11億1,804万円

土木総務費	8,915万円
土木総務費(職員給与や建設促進同盟負担金など)	8,915万円
道路橋りょう費	527万円
道路台帳整備委託料	7,208万円
道路修繕、交通安全施設整備、除雪など	5億4,598万円
道路改良工事	9,835万円
土地購入、測量設計など	3,056万円
河川費	317万円
河川維持管理業務委託、河川修繕工事など	216万円
測量設計委託、畑川ダム対策協議会補助金など	216万円
都市計画費	216万円
都市計画・都市公園整備などに関する経費	216万円
下水道費	2億4,743万円
下水道事業特別会計(公共下水道)への繰出金	180万円
住宅費	611万円
木造住宅耐震改修補助金	135万円
住宅改修補助金	1,463万円
町営住宅除去工事	1,463万円
設備保守点検管理や修繕、地域再建被災者住宅等支援補助など	1,463万円



伝統芸能などの保存活動補助金	23万円
青少年育成協会への補助金	50万円
人権啓発推進協議会への補助金	100万円
社会教育委員報酬など	972万円
公民館費	7,073万円
公民館活動に関する経費	387万円
文化財保護費	400万円
文化財保護に関する経費	466万円
保健体育費	596万円
体育協会への補助金	1,548万円
全国高校総体開催地負担金	1,249万円
スポーツ推進委員報酬など	1億3,660万円
学校給食費	1億3,660万円
学校給食費(職員給与など含む)	1億3,660万円

災害復旧費 1億6,918万円

農地・農業用施設の復旧に関する経費	5,482万円
林業施設の復旧に関する経費	2,238万円
土木施設の復旧に関する経費	9,198万円

*金額は1万円未満四捨五入。端数処理の関係上、合計などと一致しないことがあります。

木材利用に向けたさまざまな機能

森林資源量解析システムには、町全域の地上レーザ測量データが入っており、森林の林相区分や樹高、本数算定などのデータと京都府森林計画図や町独自の林分図・地番図情報、CS立体図などを組み合わせ、総合的な土地情報を把握することができます。

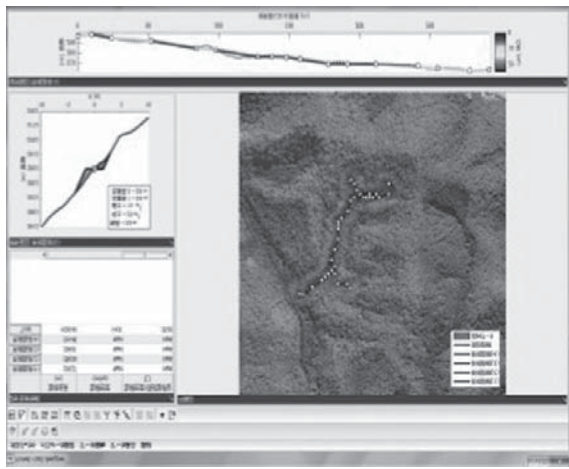
システムは町と京丹波森林組合が共同運営し、運用開始から半年が経過。森林組合では、森林の生育状況や地利を机上で確認でき、より実効性の高い森林経営計画の作成が可能になりました。効率的な搬出経路を選び出せ、施業の効率化に役立っています。

研究成果を森林資源の産業化、山地災害対応などに生かす

共同研究の期間は二年間。各関係機関は、ITデータを活用して次のことを実施・検討します。

- ▼導入したシステムと現地調査結果との比較。
- ▼町有林皆伐場所での作業能率の解析。
- ▼道端林業エリアの抽出。
- ▼山地災害危険予測や次世代森林簿の構築。
- ▼タブレット端末などを用いた現地作業支援システムの開発。
- ▼林業の成長産業化に関する監査などの仕組みづくり。

京都府立大学大学院生命環境科学研究科の美濃輪靖講師はキックオフセミナーで、「研究成果を全国の森林



森林資源量解析システムによる林道設計シミュレーション。

システム導入の経過

町の森林面積2万5,042㊦の4割がスギ、ヒノキ、アカマツを中心に植栽した人工林です。木材利用を目的に植栽しましたが、生活様式の変化などから需要が減少し、伐採期(40年～60年生)を迎えた木が、全体の57㊦を占めています。

町は、木材利用を推進し、将来の森林利用や林業の方向性を示すため「京

丹波町森づくり計画」を平成25年に策定しました。

しかし、森林簿や施業履歴台帳と実際の森林資源蓄積量に誤差があり、正確な把握は困難でした。

そこで、計画を着実に実行するため、北海道下川町の事例を参考に、森林資源量解析システム(契約額4,860万円)を導入しました。



共同研究の関係者が9月5日、道の駅「和」道路情報センターでキックオフセミナーを開催。森林資源の新産業化などに向け同志の握手。

左から、京都銀行 尾池広文公務・地域連携部長、京都府立大学 田中和博副学長、京丹波町 寺尾豊爾町長、京都府林業大学校 只木良也学長、京丹波森林組合 梅原久弘代表理事組合長。

ITデータを活用した森林管理産官学公金連携の研究スタート

本町が昨年度末に導入した森林資源量解析システムと町内全域のLEADERデータを有効活用するため、町と京都府立大学、京丹波森林組合、住友林業、京都府立林業大学校、京都銀行による産官学公金連携の共同研究を開始しました。

資源の産業化や土砂災害対応などに役立つ、実りあるものになりたい」と方向性を説明しました。

いきいき健康術 第110回

町立病院・診療所の医師や専門職員が健康情報をお届けします。



みつよし ひろのり
光吉 博則 医師
京丹波町病院内科
(南丹病院 肝臓内科部長)

『肝臓疾患～自覚症状が出る前に～』

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれています。それは、肝臓が食べ過ぎや飲み過ぎの時も文句もいわず一生懸命に頑張ってくれるからです。ところが、一度肝臓が弱ってしまうと元の状態には戻りません。体がだるく食欲がなくなり、ひどい場合は黄疸や腹水が出てきます。このような症状が出ていれば、肝臓は硬く岩のように変形し、肝硬変と呼ばれる状態です。肝硬変症はすべての肝臓病の終着駅です。

アルコール、ウイルス、生活習慣慢性肝臓疾患のさまざまな原因

慢性肝臓疾患にはたくさんの原因があります。アルコールの飲み過ぎは言うまでもありません。代表的な疾患はB型肝炎やC型肝炎です。これらのウイルス性肝炎は気づかない間に肝硬変や肝がんへ進行する怖い病気です。今までのウイルス性肝炎の治療はインターフェロン注射が欠かせませんでした、副作用が強いため高齢の患者さんには使用できませんでした。ところが、最近では副作用が少ない薬が開発され、高齢の方を含め多くの患者さんが恩恵を受けています。

原因が不明の肝臓疾患もありますが、さまざまな治療法が研究されています。大切なことは治療を受けることで肝硬変や肝がんを予防することです。

肝がんの原因で一番多いものはウイルス性肝炎です。ところが、最近ではそれ以外の原因から肝がんを合併

する患者さんが増えています。その原因の一つに生活習慣病の増加が考えられています。肝臓は生活習慣を反映する臓器です。

脂肪を含む食事をたくさんとり、体を動かす機会が減ると脂肪肝になります。単純な脂肪肝であれば心配ありませんが、なかには肝硬変や肝がんへ進行する人もいます。このような脂肪肝は非アルコール性脂肪肝炎(NASH)と呼ばれています。

血液検査で発見できる肝臓の病気 定期的に健康診断を受けましょう

肝がんの治療にはいくつかの方法があります。最も確実な方法は手術ですが、体には一番負担が大きい治療です。少ない負担で済むカテーテル治療やラジオ波焼灼療法などの内科的な方法もあります。いろいろな方法の中から個人に適した治療方法を選ぶことができます。

肝臓の病気は血液検査で偶然見つかる場合がほとんどです。症状がないからといって安心は禁物です。きちんと健康診断を受けて、肝臓に異常が見つければ早めに受診してください。

光吉先生は毎週火曜日の午前の内科外来担当です。
京丹波町病院(電話)0771-86-0220

町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします。



呼吸を合わせて、ブロック種目ムカデリレー。



2学年の台車リレー。

町内三中学校は9月上中旬に体育祭を開催。蒲生野中体育祭では、「蒲生中覚醒!!やる気爆発!!体育祭」をスローガンに、生徒がチーム一丸となってリレーや団体競技などを競いました。



町内小学校では9月中下旬に運動会を開催。和知小のPTA地域ブロック対抗大玉転がしでは、お父さんペアが勢い余って一回転。



和知小運動会の伝統競技「竹取物語」。5・6学年が作戦を練って参戦。

FLASH

さわやかな風が実りの季節を運んできました
KYOTAMBA TOWN NEWS 2016



圧倒的なチームワークを見せた京丹波チーム。

パワー全開 女性の健康フェス300人
京都府連合婦人会主催の「第三十一回女性の健康フェスティバル」が9月25日、グリーンランドみずほで開催され、府内の連合婦人会員など約300人がスポーツで交流しました。
イベントは会員の健康増進と親ぶくを図る目的で毎年開催されています。本町での開催は、昭和62年の第1回目開催以来。地元会員と丹波八坂太鼓や瑞穂音頭が会場を盛り上げました。
競技は、野菜みこしリレーや綱引きなど6競技を郡市で競い、ダンスで友好の輪を描きました。



声援を受けて力走。

初秋の丹波路つなぐ 全京都車いす駅伝
(一社)京都府身体障害者団体連合会などが主催する「第三十二回全京都車いす駅伝競走大会」と「第二十六回全京都車いすミニ駅

長寿を祝い 長年の社会貢献に感謝
敬老の日を記念する9月、本年度中に百歳、米寿(88歳)、百歳以上を迎える町民へ、本町からお祝い状と祝品を贈りました。14日には、寺尾豊爾町長と京都府南丹広域振興局の姫野孝宏副局長が、本年度に百歳を迎える6人を訪問。多年にわたり社会の発展に寄与されたことに感謝を述べ、長寿を祝いました。



右が中村さんと最優秀賞のかぼちゃ。ジャンボかぼちゃのようにすくすく育ってね。

大玉ずらり ジャンボかぼちゃ総選挙
蒲生区の「ジャンボかぼちゃ大会」は9月4日、出展数43点の中から区民投票で中村勇次さんのかぼちゃを最優秀賞に決定。重さ当てクイズでは吉田龍一さん(蒲生野区)がニアピン賞を獲得しました。「今年は高温が続いたため、かぼちゃが腐りやすく例年より出展数が少なかった」と中田崇峻実行委員長。大会は、地区住民が村おこしにと始め、今年で15回目を迎えました。「始めはかぼちゃ苗を全戸配布して参加を募ったが、観賞用かぼちゃの栽培に理解が得ら

伝競走大会」が9月4日、丹波自然運動公園を発着点に開催され、76選手が丹波路を駆け抜けました。本大会は、府民が協力してノーマライゼーションの実現に貢献しようと呼びかけられています。
本町から3チームが出場し、チームメイトが力を合わせゴールしました。入賞は、4区間9.3キロを競う車いす駅伝競走の区間賞に小島広さん(4区12分53秒)。また、ミニ駅伝の一般の部で「京丹波町瑞穂支部チーム」が南丹市の出場チームと同記録とともに1位となりました。

福林ユキさん(曾根)は、祝品などを受け、「今日まで生かしてもらえたことは、もったいないこと。皆に感謝している」と喜び、家族から「戦中は夫が出征した約7年間、3人の子育てなど本当に苦労したと思う」と改めて労いの言葉が贈られました。
本年は、米寿158人、101歳以上は20人、最高齢は105歳の土保はる此さん(水原)でした。

わたしたちの町	
人口	14,970(-6)
男	7,081(-5)
女	7,889(-1)
世帯数	6,383(-2)
10月1日現在/()は前月比	

義援金などの受付状況	
東日本大震災および熊本地震の被災地支援として取り組んでいる義援金と、友好町・福島県双葉町への復興支援募金の受付状況を報告します。 (平成28年9月30日現在)	
受付金額	
東日本大震災義援金	9,638,238円
熊本地震義援金	1,615,513円
復興支援募金	7,034,326円

訂正とお詫び
広報京丹波9月号の3ページ写真説明を以下の通り訂正し、お詫び申し上げます。
誤「市森・琴滝」
正「須知・琴滝」

編集後記 どこからともなく漂う金木犀の香りに、ふっと心が軽くなります。

れず苦勞した」と振り返ります。現在は、入賞を目指してかぼちゃ栽培を競い、開票当日は地域子ども会が参加してゲームやかぼちゃ尽くしの昼食を楽しみイベントとして定着しています。

ご寄付のお礼		ふるさと応援寄付金(ふるさと納税)をいただき、ありがとうございます。	
中村 幸子	1万円	藤田 有希	1万円
山本 和矢	2万円	西嶋 美徳	1万円
片岡 孝	1万円	大賀 裕幸	1万円
黒川 洋一	2万円	加藤 健志	1万円
佐藤 勝三	5万円	野口 展生	1万円
竹嶋 明彦	1万円	長田 武志	1万円
大谷 豊	1万円	片山 山治	10万円
高橋 喜弘	1万円	吉田 寛	1万円
岡野 幹夫	1万円	森泉 大樹	1万円
蓑口 里志	1万円		

*敬称略
*掲載内容は寄付者の申し出にもとづく



家族の笑顔が満開。



京丹波町長賞「シートベルトは命綱」
 さいお ののか
 齊尾 野々花さん (蒲生中1年)



京都府南丹警察署長賞
 「ながらスマホ ながら運転 事故のもと」
 さとうち あゆな
 里内 歩奈さん (瑞穂中3年)



南丹船井交通安全協会長賞
 「てをあげて わたろう」
 やまどり ひろと
 山鳥 弘翔さん (竹野小1年)

交通安全 啓発ポスター コンクール作品展

交通安全の意識を高め、交通事故を防ぎましょう

南丹船井交通安全協会京丹波支部が毎年、町内の小中学生を対象に行う「交通安全啓発ポスターコンクール」で、小学生の部に127点、中学生の部に189点が集まりました。審査会は特選3点、優秀賞7点、佳作19点を決定。表彰式を9月25日、京丹波町中央公民館で行いました。

—作品展日程—

京丹波町病院 10/20～31
 道の駅「和」道路情報センター 11/8～17
 道の駅「丹波マーケス」 11/25～12/4



優秀賞「てをあげて わたろう」
 はらさわ ゆい
 原澤 佑衣さん (竹野小1年)



優秀賞「危険と感じたときはもう遅い」
 こはら あやめ
 小原 彩芽さん (瑞穂中1年)



優秀賞「ルールを守って安心を」
 いしだ さな
 石田 沙奈さん (和知中2年)



優秀賞「前、見てますか」
 やまもと のあ
 山本 乃愛さん (瑞穂中3年)



優秀賞「前を向いて!!!」
 うえだ みく
 上田 美空さん (蒲生中1年)



優秀賞「しっかり止まろう」
 たなか なつみ
 田中 なつみさん (蒲生中2年)



優秀賞「あなたにとってスマホは凶器になっていませんか」
 ふじわら はづき
 藤原 葉月さん (蒲生中2年)